



飯山満駅南口 橋梁工事 (清房院付近)

「寝たきりにしない」・「寝たきりを作らない」



センター長
石原 茂樹

2025年5月より、再び、センター長としての役を仰せつかりました。

船橋市リハビリセンターが地域のリハビリテーションの拠点として、信頼されるように、これからも頑張っていこうと思います。

今年(2025年)は、今まで2025年問題を乗り切るために、船橋市においても、行政を中心に、医療、看護、介護、福祉等の関係者が様々な取り組みをしてきました。これからは、新たな目標としての2040年問題があります。

「2040年問題」は、団塊ジュニアが65歳の高齢者になり、さらに85歳以上の超高齢者が増加することにより、医療、介護、福祉サービスの需要がさらに増して来る問題と、少子化による、生産年齢人口の減少や、過疎化などの問題が挙げられています。

船橋市の人口と高齢化率

船橋市の総人口は2025年4月9日：650,023人突破(船橋市HP)とのこと。そして、船橋市の高齢化率は23.9%です。当センターが訪問リハビリを行っている地域別では、二宮飯山満地区26.2%、三山田喜野井29.4%、薬円台21.4%、習志野台26.2%、新高根・芝山31.1%、高根台35.2%、松が丘37.9%、坪井15.0%、大穴37.3%とのことでした(令和6年度ふなばしの人口より)。*高齢化率とは(総人口に占める65歳以上の割合)

施行から25年経過した介護保険制度

これらの現状の中で、2000年に介護の社会化を掲げて導入された介護保険制度も25年経過し、問題が指摘されています。現在では、ケアマネジャー、介護福祉士やホームヘルパーなど地域包括ケアシステムの重要な基盤である介護人材の確保等が問題となっています。船橋市が令和5年度に市内介護サービス事業所に対して実施した「令和5年度船橋市介護人材実態調査」によると、約70%の事業所が人材不足を感じているとのことでした。

また、介護保険財政では、介護給付費の増加と介護保険料の負担増が問題となっています。身体能力や認知力は年齢とともに低下しますので、生き生きとした生活を送るためには、介護予防活動に取り組むことが必要です。元気で長生きは自分の人生にとっても有意義なことですし、ひいては、介護給付費を減らすという面からも介護保険財政の健全化に貢献すると思います。

当センターの取り組みについて

医療法人社団輝生会の理念の一丁目一番地は「人間の尊厳の保持」です。生活期において「寝たきりにしない」・「寝たきりを作らない」ということは当法人のミッションですので、これからも、スタッフ一丸となって、地域包括ケアシステムの目標である「住み慣れた所で、生き生きとした生活を送ること」を支援することに取り組んでいきます。

輝生会の
基本理念

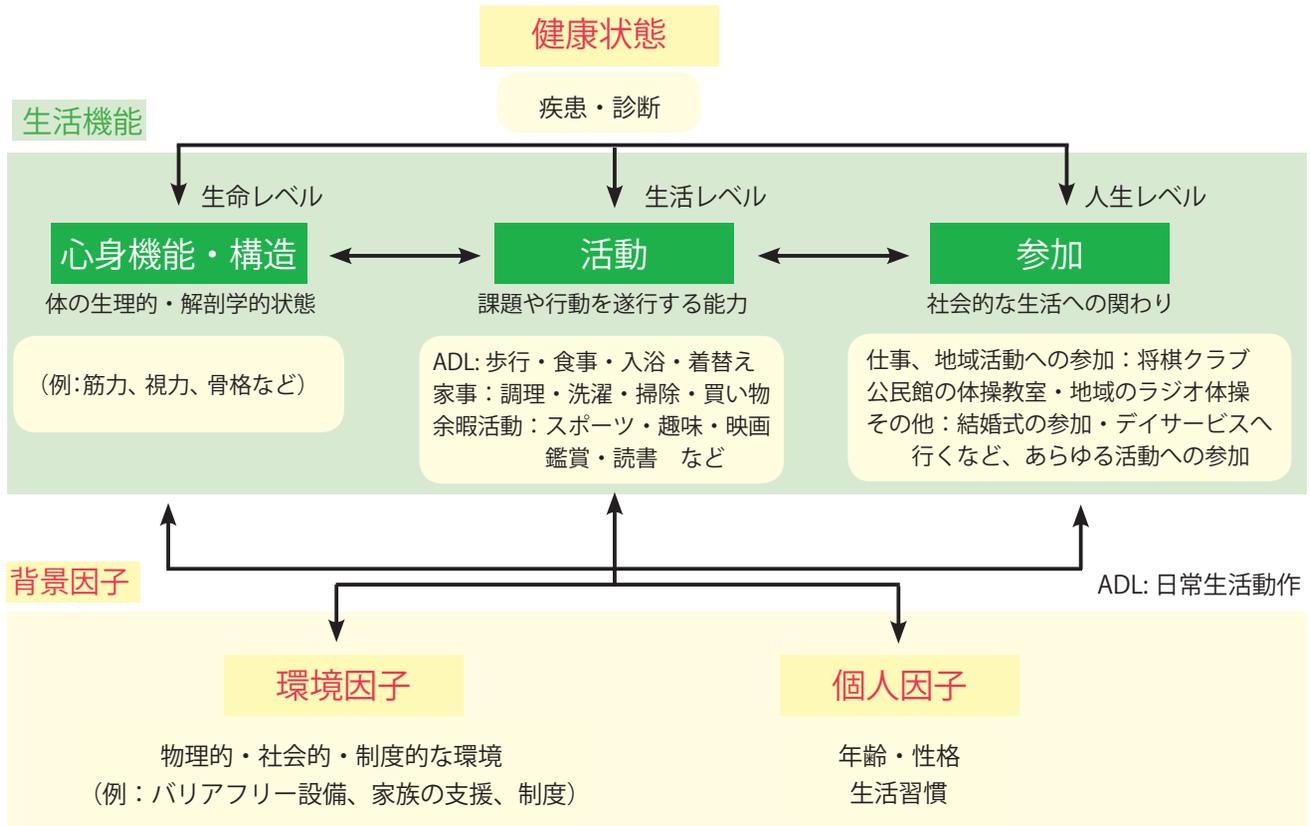
- 「人間の尊厳」の保持
- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「情報」の開示
- 「主体性・自己決定権」の尊重
- 「ノーマライゼーション」の実現

ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health : 国際生活機能分類) は、2001年にWHO(世界保健機関)が採択した、人の健康状態や障害のあり方を、包括的・統合的に捉える国際的な分類体系です。

ここでは、ICFの構成、特徴、活用例など、まとめてみました。

ICFの構成

ICFは、健康状態や生活機能、背景因子を分類し、個人の健康状態を多角的に把握する(見落としなく全体像をつかむ)ことを目的としています。
ICFは単に病気の有無だけでなく、その人が持つ能力や環境との関係性を含めて、生活機能の状態を把握するための枠組みです。



ICFの特徴

「人が生きること」のうえで最も重要なのは目的である「参加」である。

(上田 敏 氏 : 第18回 船橋市地域リハビリテーション 研究大会にて)

- ・ ポジティブな視点: できないことではなく「できること」に注目します。
障害があっても「こうすれば出来る」というプラスの視点を持ち、活動や参加にむけて何が必要か(例えば福祉機器の活用など)を建設的に考える際の支援となります。
- ・ 多職種連携の共通言語として、医療・介護・福祉・教育など様々な分野で活用されます。
- ・ 障害と健康を連続体でとらえることで、誰もが対象となる「生活の質(QOL)」向上を重視します。

ICFの活用例

- ・ 多職種カンファレンスでの情報共有
- ・ リハビリテーション評価
- ・ ケアプラン作成(介護保険)
- ・ 障害者の就労支援 など



外来・通所・訪問リハビリを希望される方は、

船橋市リハビリセンター(047-468-2001)までご相談ください。

訪問看護事業

熱中症対策について

訪問看護だより



今年も去年に引き続き猛暑になる予測があります。
快適な夏を過ごすためにも熱中症対策をしながら過ごせるように
お勧めのグッズを紹介します。



○熱中症対策オススメグッズ○

	名称	効果
1	冷感タオル (冷却タオル)	水に浸すだけで瞬時に冷たくなるタオル。首元に巻くだけで効果的に体温を下げられます。繰り返し使えて経済的です。
2	ネッククーラー	PCM 素材 (温度変化に応じて冷却する素材) を使ったネッククーラー。首に巻くだけで、体温を効率的に下げられます。
3	冷却ジェルパッド	使い捨てタイプで、必要なときにすぐ使える冷却パッド。急に暑くなった時や寝苦しい夜に便利です。
4	アイスノン 	首や額、脇の下など、体温調整に重要な部分に当てる事で、体温を迅速に下げることができます。
5	クールベスト	ベストに保冷剤を装着でき、保冷剤が溶けるまでは使用可能。外出時や屋外での活動に最適です。
6	ファン付き空調服	服内の空気を循環させ、体温を効果的に下げます。屋外での移動や庭仕事などの活動時に効果的です。
7	ハンディ扇風機 	風を直接体に当てる事で、体温を効果的に下げることができます。外出先でも手軽に使用できます。
8	経口補水液・塩分チャージタブレット+水分 	汗には水分だけではなく、ナトリウムやカリウム等のミネラルも含まれています。水分と共に塩分やミネラルの補給も必要です。
9	・遮光日傘 ・帽子 ・アームカバー	直射日光を遮る事で体温上昇を抑制します。
10	温湿度計 	温湿度計を使用し、室温は 28 度以下、湿度 70% 以下を目安に調整しましょう。



◇快適な夏を過ごすために◇

これらのグッズを活用することで、熱中症を予防しながら快適に過ごすことが出来ます。特に高齢者や体調が不安定な方にとって、こまめな冷却、水分補給、室内環境の管理が重要です。どのグッズも手軽に取り入れやすいものばかりなので、ぜひ生活に役立ててください。

訪問看護を必要とされる場合、訪問看護ステーション：所長 亀山 笑美 または ソーシャルワーカーまでお気軽にお電話 (047-773-0319) ください。

地域リハビリ 拠点事業

～活動報告～

「地域リハビリテーション拠点事業」では、関係機関と協力し様々な活動を行っています。

第40回地区勉強会

2025年6月23日(月) きららホール

参加者 114名

「在宅での終末期を迎えた方をチームでどう支えるか～その人らしさを尊重して～」をテーマに、ミニレクチャーを聞いた後、12グループに分かれ、活発な意見交換が行われました。グループワークでは多職種で混成チームを組み、人生の最終段階にあるA氏を支えるための目標設定と具体的支援策を検討しました。

【ミニレクチャー】

在宅での看取りの対応について ～その人らしさを尊重した看取りを行うために～

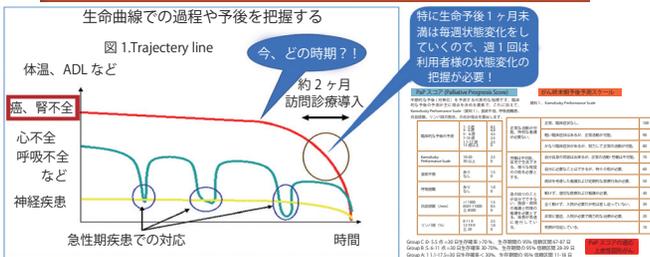
本日のメニュー

1. がん終末期の状態変化の特徴について
2. 治療やケアで改善できる苦痛に対するの対応
3. 治療やケアで改善できない苦痛に対するの対応

1. がん終末期の状態変化の特徴

がん終末期の在宅緩和ケアでは、まず「予後予測」が非常に重要です。特に余命1か月未満では状態が日々変化するため、患者が今どの段階にあるのかを正確に把握する必要があります。

在宅緩和ケアに必要な視点！何はともあれ！予後予測！！



がん末期になると「悪液質（カヘキシア）」と呼ばれる筋肉や脂肪の消耗が進み、多臓器不全を経て死に至ります。この段階では、体重減少や食欲不振、倦怠感といった症状が顕著になります。予後10日を切ると、歩行や食事、水分摂取などの基本的な生活機能に障害が出始めるため、訪問介護や入浴、エアマットなどの支援体制を整えておくことが大切です。

「がん悪液質（カヘキシア）」とは

がんによって筋肉や脂肪が減っている状態
体重減少（るい瘦）、食欲不振、倦怠感が特徴
複数の因子によってもたらされる慢性炎症が
中心的な機序と考えられている

病態：進行がんによる免疫反応で産生されたサイトカインによる蛋白質亢進・脂肪分解・耐糖能低下などの代謝異常状態

症状：食欲不振、全身倦怠感、るい瘦（筋萎縮、体脂肪減少）、高血糖、発熱、電解質異常、骨髄抑制（→貧血等）、多臓器不全など

2. 治療やケアで改善できる苦痛に対するの対応

苦痛緩和では、経口摂取が困難になった際に持続皮下注射で麻薬などを使用する方法があります。また水分補給についても、点滴の是非を慎重に判断する必要があります。多くの場合、水分が体内で処理されず、むくみや腹水などを引き起こすため、点滴が必ずしも快適さに繋がるとは限りません。口渇に対しては輸液よりも口腔ケア

が有効とされ、高カロリー輸液も効果がなく、かえって口渇を悪化させることがあります。せん妄が出現した場合は、否定せず、発言に寄り添う姿勢が重要です。幻



つばさ在宅クリニック 永島 徳人 氏

覚や既に亡くなっている家族が見える「お迎え現象」が出ることもありますが、不安の軽減につながる場合もあります。

3. 治療やケアで改善できない苦痛に対するの対応

さらに、終末期にはスピリチュアルな苦痛や「存在的苦痛」が現れます。このような苦しみに対しては薬物療法だけでなく、共感や傾聴といった非薬物的対応が求められます。苦しみとは「希望と現実のギャップ」であり、援助的コミュニケーションによって支えを再認識し、生きる意味を取り戻していく手助けになります。具体的な技法としては、感情の「復唱」、大切な言葉を引き出す「沈黙」、支えを探る「問いかけ」などがあります。

苦痛がある利用者さんに対する関わり方 ～コミュニケーション～

- ◎ 励まし・説教・説得・説明は、無効なことが多い
- ◎ 利用者の日常生活・人生を知ること
- ◎ 全身全霊で話を聴く
- ◎ 質問攻めと共感しながら聞くことは違う
- ◎ 復唱・沈黙・問いかけの技法を使いながら、傾聴する



「頑張って！」は禁句
利用者さんは、今まで十分に頑張ってきたのです！

後悔の少ない看取りにつなげるために

目の前の死にできる限り向き合うこと

- 残された時間をどう生きていきたいか
 - 痛みや苦しみはとって欲しい
 - 穏やかで静かな最期を迎えたい。延命はしたくない
- できることができなくなる中でどのように過ごせばおだやかになれるか
 - 孫やペットに会いたい、酒が好き、タバコを吸いたい、お風呂が好き
 - 納得した最期を迎えるために残された時間で何をしたいか
 - 食べたいもの、行きたい場所、伝えたい言葉 など



本人が人生の最期に自分らしい日々を送り、家族がその最期に十分にかかわれた時、<良い看取りだった>と感じることができる

在宅看取りでは、医療だけでなく「その人らしさを支える姿勢」が重要です。医療職、介護職、家族がチームとなり、患者が穏やかな最期を迎えられるよう支援する視点が必要とされます。

事例

グループワークまとめ

利用者氏名：Aさん（82歳・男性）、住所：船橋市、職業：無職、身長：165cm、体重：測定困難
 要介護度：要介護5 身体障害者手帳3級の2種（両側膝関節機能全廃）寝たきり度：C2 認知症自立度：II b

【傷病名】中枢神経びまん性原発大細胞型B細胞性悪性リンパ腫
 【既往】腰椎すべり症、胆管結石・腸閉塞、両変形性膝関節症、心不全、ニューモシスチス肺炎
 【障害名】右片麻痺、構音障害、記憶力障害、左半側空間無視、左耳難聴
 【これまでの経過および治療経過】
 2019年 開頭術で中枢神経リンパ腫と診断、化学療法・サイバーナイフ実施
 2020年より緩和方針。以降、感染症・腎不全・透析などを経て、2022年胃瘻造設
 2022年8月より在宅療養開始、2025年発熱・痙攣で再度入院、胆嚢炎と診断→退院し在宅再開
 主治医からは余命3ヶ月と宣告されている

【家族構成・支援体制】
 妻と2人暮らし（妻は軽度認知症あり、経管栄養の手技可）、同敷地内に長男、道向かいに長女（毎日介護）
 長女の子（孫）が医療・介護職で介護力高い

【現在の生活状況】
 状態：寝たきり、右片麻痺、寝返りでの協力動作あり、経管栄養、嚥下訓練中。
 歯科：上前歯・奥歯がなく上下部分入れ歯使用、口腔乾燥、歯周病あるが、虫歯はない。
 訪問支援：訪問診療・訪問入浴あり。
 ADL：全介助（移乗はリフト使用、ティルト車いす使用）
 摂食嚥下：経管栄養中心、ゼリー等の経口摂取試みあり。
 コミュニケーション：構音障害の影響で聞き取りにくさはあるが、簡単な日常会話は可能。
 排泄：浣腸により排便管理、オムツ使用。

【本人の生活歴・価値観】
 生まれも育ちも船橋市。農業・警備業など幅広く経験。畑仕事・相撲・珈琲・甘い物が好き。
 元来、家族思いで、「自分のことは後回し」にしてきた性格。
 本人の希望：最期まで自宅で暮らしたい。誕生日を家族と過ごしたい。みんなでケーキを食べたい。
 家族の希望：家族をとっても大切にしていたので一緒に過ごしたい。
 食べることが好きだったので誕生日に好きなものを食べさせてあげたい。

グループワークでは、事例をもとに①人生最後に叶えてあげたいことは何？という問いに、参加者が意見を出しあい、②チーム目標を設定し、さらに③具体的支援策をまとめました。

全体の総括として、多くのグループで「本人の希望や楽しみを最期まで大切にすること」を軸に、チームとしての目標設定をおこなっていました。

医療・介護・生活支援の各専門職が、専門性を持ち寄りながら連携し、生活の質（QOL）を最大限に高める支援を模索する姿勢が共通して見られました。特に「季節や家族の行事を通じて、人生を豊かに締めくくる工夫」が多くのグループで掲げら



れ、多職種連携の醍醐味が感じられる内容でした。

中でもグループ1は「夏の思い出をつくる」ことを目標に、誕生日会、庭での花火、相撲観戦、畑への外出などを提案され、その先にある「10月の孫の誕生日に参加する」という“希望を持って生きる”ことを重視した点が印象的でした。

各職種が担う支援策も具体的で、医師はステロイド導入や熱中症

職種：Dr. Nerve, PT, OT, 管理栄養士, CM, NS / G

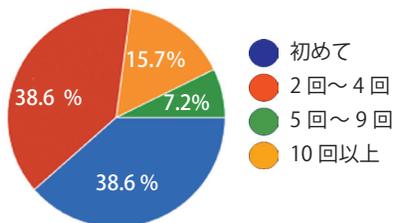
チーム目標
 夏の思い出をつくる→誕生日会、庭で花火、相撲を見に行く、畑に行く
 10月の孫の誕生日会

具体的支援策
 Dr: 採血検査→ステロイド使用を許可、熱中症対策、嚥下検査
 外出に備え診療情報提供書の準備
 Nerve: 定期巡回支援→異事早期発見、補償手帳
 家族の時間支援
 PT/OT: 環境調整→移動、食事時の不着座、両目の下見、Nerve-Fanの介助指導
 本人の居室スペースと家具配置、移乗外出に向けた練習、本人のニーズ確認
 管理栄養士: 家族の栄養管理と食事のサポート、STや加齢による嚥下食検討
 CM: 診察・STや加齢に伴うFanの介助難しさを懸念しプラン作成
 NS: 吸引手帳とFan指導し、確認、口腔ケア指導

対策を含む診療調整を、リハ職は移動・外出の練習やポジショニング支援を、介護職は定期巡回による異常早期発見や家族との時間支援を提案。さらに、管理栄養士やケアマネジャー、看護師もそれぞれの立場から介護負担軽減や口腔ケア支援などを行うことで、A氏の“らしさ”をチーム全体で支える工夫が凝らされていました。

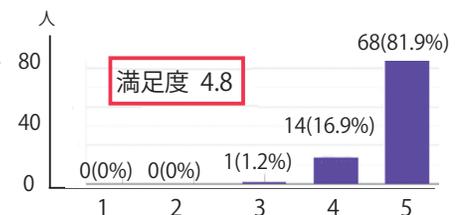
アンケート 結果

船橋市地域リハ活動（研究大会・勉強会等）に参加されるのは何回目ですか？ 83件の回答



・今回の勉強会に参加された方の参加回数は、初めての方が32名（38.6%）、2～4回32名（38.6%）、5～9回6名（7.2%）、10回以上13名（15.7%）でした。
 ・勉強会の満足度は5評価：68名、4評価：14名、3評価：1名で、全体の満足度は4.8でした。

この勉強会全体の満足度はどのくらいですか？ 83件の回答



・満足度の理由として、短時間ながらも、「他職種の視点を学べて視野が広がった」「普段関われない職種と意見交換できて刺激になった」といった声が多く、満足度も非常に高いものとなりました。

地域リハビリ拠点事業のホームページは船橋市リハビリセンター HP 内にあります。

このQRコードで直接アクセスできます。

地域リハビリ拠点事業
ホームページQR



活動状況の閲覧、勉強会の申込書などが格納されていますので、ブックマーク登録してご活用ください。

リハビリ事業 (介護予防)

介護予防を図る目的で

市内に住む 65 歳以上の身体機能の低下がみられる方を対象に、実施している事業が「リハビリ事業」です。



「リハビリ事業」では、パワーリハビリ教室、パワーリハビリフォローアップ、プールリハビリを行っています。利用料金はそれぞれ 350 円です。飯山満駅・薬園台駅・東船橋駅から巡回バスも運行しています。

厚生労働省推奨 + 10 (プラス・テン) を始めましょう!

+ 10 (プラス・テン) とは

+ 10 (プラス・テン) とは、いつもより 10 分多く体を動かす事です。運動の目標が『週に〇回〇時間運動しましょう』といった内容だとハードルが高く感じ、実行に移せない方も少なくないと思います。

そんな方に適した目標が + 10 です。

今よりほんの少し意識を変えるだけで良いのです。

どんなことをすれば良い?

体を動かせば何でも良いです。出来る事から始めてみましょう。

【家の中でも】

- ラジオ体操を行う
- ストレッチ・筋トレを行う
- ロコトレを行う
- キビキビと掃除や家事を行う
- 庭仕事を行う
- イスに座りながら足踏みをする
- テレビを見ながら、膝・足首の曲げ伸ばしをする
- 座りっぱなしの人は時々立ち上がって体を動かす

【外出して】

- 歩く時間をいつもより 10 分 (約 1000 歩) 増やす
- 少し早歩きをする
- 歩幅を少し広くして歩く・腕を大きく振って歩く
- 公園を散歩する
- いつもより少し遠くの店まで買い物に行く
- 目的地の一つ前の駅で降りる
- 友人と会う
- 孫の送り迎えをする
- 地域活動に参加する
- エスカレーターやエレベーターを使わず階段を使う
- 遠回りをして帰宅する



+ 10 で期待できる効果



筋力アップ

脂肪燃焼

サラ サラ
血圧・血糖値の改善

+ 10 を行うことで、筋力アップ、脂肪燃焼、血圧・脂質・血糖値の改善、足腰の強化、認知症予防、健康寿命の増進、免疫力アップ、癌予防等が期待できます。今より 10 分多く体を動かしてみませんか?



転倒予防



認知症 予防



健康寿命増進



免疫力アップ



癌 予防

<利用の手続き>

パワーリハビリ教室：年に 4 回、3 カ月おきに船橋市の広報にて公募 (2/15・5/15・8/15・11/15 の号にて掲載)
プールリハビリ：随時受け付けています。

リハビリ事業専用回線：047-400-6227 (平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00)

委員会より

サービス向上委員会

私たちの取り組み 「接遇と私」

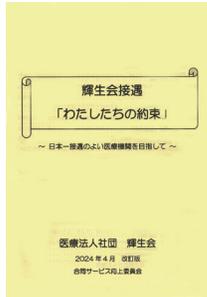
輝生会では「よりよい接遇をめざして」を、合い言葉にして、接遇ルールブック『私たちの約束』をもとに日々の業務に取り組んでいます。

当センターでは、2025年度接遇目標として、

「朝一番の挨拶は大きな声で、
自分から！」

をあげています。

12月には、優れた実践を日ごから心掛けているスタッフを、接遇に優れたスタッフとして表彰しています。



今回は、作業療法士の長谷川あさひさんの「元気ハツラツな第一声」を紹介します。



私は「元気ハツラツな第一声」を意識しています。特に訪問リハビリでお伺いした際に、明るい挨拶をすると「こちらも明るい気持ちになるよ」と言って頂けたことがあり、前向きにリハビリに取り組むきっかけにもなると感じています。これからもしっかりと目を見て、笑顔で明るく挨拶をすることから、リハビリを始めていけるように心がけていきます。

地域連携推進委員会

ケアマネジャー交流会

2025年6月19日(木)

場所：船橋市リハビリセンター



第14回ケアマネジャー交流会が暑さ厳しい中、28名のケアマネジャーの皆さまとセンタースタッフ25名の参加のもと、開催されました。

尾下真志 外来・通所リハ部門フロアマネジャー (FM と略) のミニレクチャーと、泉水泰良 訪問リハ部門 FM、亀山笑美 訪問看護部門所長、江尻和貴 副センター長の挨拶ののち、各グループに分かれ自己紹介

を行い、暑さ対策など話題とし、素敵な対応をしてくれた医療職、ケアマネさん、こんなケアマネさんがいたらいいな、など意見交換をしました。短い時間でしたが、交流を通じて、有意義な時間となりました。今後もこのようなケアマネジャーの皆さまとセンタースタッフが直接顔を合わせ、互いの業務や想いを語り合う機会を大切にしていきたいと思ひます。そして、よりよいリハビリ提供に繋げてまいりたいと強く感じました。



スタッフ紹介

新入・異動スタッフに質問 ①センターの魅力 ②趣味など ③今後の抱負

PT：理学療法士 OT：作業療法士 CS：サポート部



(嶺岸 悠二 OT)

- ①スタッフの温かい雰囲気が魅力。利用者さんが安心してリハビリに取り組める環境が整っていること。
- ②友人や家族とドライブに出かける事が多くリラックスできる時間を楽しんでいます。
- ③利用者さん一人ひとりに寄り添い、丁寧な支援を心がけていきたいと思ひます。



(山田 雄斗 PT)

- ①外来・通所・訪問リハビリと、利用者さん一人ひとりの生活に密着したリハビリが実施できる場所。
- ②野球やサッカーなどのスポーツ観戦をすること。
- ③多くの知識を身に付けて利用者さんの生活課題や不安に感じている部分を解消していけるようにしていきたい。



(野村 麻希 CS)

- ①アットホームで温かい雰囲気が。初めての人でもすぐに打ち解けられ居心地が良い。
- ②1年位前からフィットネスに通い始めたのですが、苦手だった運動が楽しくなってきました。
- ③業務が幅広く多岐にわたっていますが、早く業務を覚えて頼られる存在になりたい。



(久保 翔太 CS)

- ①少人数ですので、ひとりひとりのスタッフ同士の距離が近いことが最大の魅力です。
- ②ラーメン屋さん巡りです。オススメのお店がありましたら教えてください。
- ③早く業務に慣れ、リハビリに専念できる環境づくりのお手伝いができればと思ひます。

地域の施設紹介

院長 紹介



八田 哲 先生



船橋総合病院では日頃から、ごく普通の身体上の不調に対応することを第一にしております。その上で、手術も含めた外科的加療にて、市民の皆様の健康に寄与することを目標とし、職員一同頑張る所存です。



船橋総合病院

〒 273-0864 千葉県船橋市北本町 1 丁目 13-1
TEL:0570-07-2784



船橋総合病院は、東武アーバンパークライン新船橋駅から徒歩 6 分圏内にある 2 次救急病院です。内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科をはじめ多くの診療科を標榜し、救急医療、回復期リハビリテーション病棟、訪問サービス、予防医療などトータルケアを提供しています。

院長の八田哲先生の専門は脊椎外科で、それ以外にも外傷、関節疾患など幅広く対応しています。病院は入院、外来機能を有し、泌尿器科でダビンチ（ロボット手術）を使用した最先端の手術を行っております。前病院長の塚本哲也先生が院長を務める「あい在宅クリニック」や「訪問看護ステーションきゅろっと」、訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所などの併設事業所でも、多くの方々の療養生活をサポートしています。

「愛し愛される病院」を理念に掲げ、近隣の医療介護事業所との連携にも力を入れています。「船橋在宅医療ひまわりネットワーク」の委員会活動では、本誌 5-6 ページにある地区勉強会等の運営にも積極的にご協力いただいております。



利用者さんの声から

仕事と介護を両立させながら

鈴木 利幸さん

2017 年 12 月に弁膜症と動脈瘤の手術（Bentall 手術）と徐脈のためにペースメーカー移植術を受け、経過中に受け答えが遅いことから、CT 検査で脳梗塞と診断。歩く事や手の動きは問題なかったのですが、失語症との診断で言語療法が開始となり、退院後、2018 年 1 月より、リハビリセンターの言語リハビリに通い始めました。あれから 7 年 5 ヶ月が過ぎています。

先生からは、終了でもよいのではと言われていますが、もう少し言葉がはっきり出るようになりたいと思い、今は月 2 回の頻度で続けています。

生活面では、フルタイムの仕事にも就くことができ、なんとか社会的役割を果たしています。家には、82 歳

の母親がいて介護を必要とする状態ですので、仕事と介護を両立させながらの生活です。そんな中、時間のある時には、バイクに乗ることが趣味なので、蔵王エコーラインや、銚子のほうなどへのツーリングをしたりしています。転ばないようにいつも注意されています。



これからも心臓手術後の経過観察と言語療法をつけ、母親の介護もしながら、過ごしていきたいと思えます。センターの皆様には、いつも優しくしていただいていますので、感謝です。

船橋市リハビリセンター 案内図



【編集後記】2040 年問題と高齢化、「寝たきりにしない」思いを巻頭言としました。クリニック事業では障害があってもできることに目を向ける ICF を解説。訪問看護事業では熱中症対策グッズの紹介。地域リハ拠点事業では看取りをテーマにした地区勉強会のまとめ報告、リハビリ事業ではいつもより 10 分多く体を動かすプラス 10 を紹介、委員会よりは多数のケアマネさんの参加のもと行われたケアマネ交流会報告、施設紹介では地域活動に積極的に参加されている船橋総合病院を紹介、利用者さんの声では言葉の問題に取りくんでいる鈴木さんを紹介。今年も、猛暑の夏ですので、体調管理に注意して乗り切りましょう。（石原茂樹）

船橋市リハビリセンター 〒 274-0822 千葉県船橋市飯山満町 2-519-3 TEL (047) 468-2001 FAX (047) 468-2059

この冊子の画像及び文章の無断引用することを禁止します。